12ヶ年指導計画例(音楽及び芸術(音楽Ⅰ～音楽Ⅲ))

【実際の指導における12ヶ年指導計画の活用及び留意点について】

- ①現行学習指導要領では、「小中高の指導内容における連続性や系統性を明確に示している」ということを読み取った上で、各校種や単元の指導計画を立てる。
- ②児童・生徒につまずきがある場合、連続性に着目し、つまずいている校種や学年の内容から学び直しをさせながら、その単元を指導する。
- ③「音楽を形作っている要素」を知覚(聴き取り)・感受(感じ取り)することを、12ヶ年の全ての音楽活動の支えとするために、【共通事項(小学校・中学校)】【A表現 事項工、B鑑賞 事項イ】を踏まえて指導する。
- ④ここでは、高等学校の音楽について、各学科に共通する各教科の1つである、芸術科の音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲを取り扱う。

範唱・範奏・階名唱の学習を通じて、12ヶ年の初期段階である小学校でソルフェージュ能力を向上させることの重要性を考える。

	小学第1学年及び第2学年	小学第3学年及び第4学年	小学第5学年及び第6学年	中学第1学年	中学第2学年及び第3学年	音楽Ⅰ	音楽Ⅱ	音楽Ⅲ	
A 表現	(1) 歌唱 ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。 イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。 ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。 エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。	(1) 歌唱 ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。 イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。 エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。	(1) 歌唱 ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。 イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。 エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。	(1) 歌唱 ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。 イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	(1) 歌唱 ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。 イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。 ウ 声部の役割と全体の響きとのかかりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	(1) 歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。 イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。	(1) 歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって歌うこと。 イ 曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかりを理解し、表現を工夫して歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴と表現上の効果とのかかりを理解し、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して歌うこと。	(1) 歌唱 ア 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌うこと。 イ 様々な表現形態による歌唱の特徴を理解し、表現上の効果を生かして歌うこと。	
	(2) 器楽 ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。 イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。 ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	(2) 器楽 ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。 イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	(2) 器楽 ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。 イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	(2) 器楽 ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。 イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	(2) 器楽 ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。 イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。 ウ 声部の役割と全体の響きとのかかりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	(2) 器楽 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること。 イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。	(2) 器楽 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって演奏すること。 イ 楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかりを理解し、表現を工夫して演奏すること。 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴と表現上の効果とのかかりを理解し、表現を工夫して演奏すること。 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること。	(2) 器楽 ア 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏すること。 イ 様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果を生かして演奏すること。	
	(3) 音楽づくり ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。 イ 音を音楽にしていこうと楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。	(3) 音楽づくり ア いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。 イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。	(3) 音楽づくり ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。 イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。	(3) 創作 ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。 イ 表現したいイメージをもち、音楽材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	(3) 創作 ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。 イ 表現したいイメージをもち、音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。	(3) 創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。 イ 音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。	(3) 創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって創造的に音楽をつくること。 イ 音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって創造的に音楽をつくること。 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって創造的に変奏や編曲をすること。 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して音楽をつくること。	(3) 創作 ア 様々な音楽材の表現効果を生かした構成を工夫して、表現意図をもって個性豊かに音楽をつくること。 イ 様々な様式や演奏形態の特徴を理解し、表現意図をもって個性豊かに音楽をつくること。	
	B 鑑賞	ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取って聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。	ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。	ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。	ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。	ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。	ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかりを感じ取って鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。 エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。	ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかりを理解して鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して鑑賞すること。 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴について理解を深めて鑑賞すること。 エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めて鑑賞すること。	ア 音楽の構造上の特徴と美しさとかかりを理解して鑑賞すること。 イ 現代の我が国及び諸外国の音楽の特徴を理解して鑑賞すること。 ウ 音楽と他の芸術や文化とのかかりを理解して鑑賞すること。 エ 生活及び社会における音楽や音楽にかかわる人々の役割を理解して鑑賞すること。

【共通事項(小学校)】

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
ア音楽を形づくっている要素のうち次の(7)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。
(7) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
(イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み
イ音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

【共通事項(中学校)】

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
ア音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ること。
イ音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。